

B to CからB to Bへ戦略転換で部数倍増 音声版とAIでさらなる飛躍

■ 回想新聞社 / HULL 株式会社

認知症予防効果があるとされる「回想法」の普及を目指し開発された「回想新聞」。

昭和のニュースを丁寧に記事化した紙面で、企画、編集を手掛けるのは回想新聞社、販売はHULL(株)が担う共同事業として展開。

順調に部数が伸び、次はさらなる成長に向けて音声版の普及に取り組む。

支援内容

回想新聞の編集方針は「認知症を発症したシニアでも楽しめる会話のキッカケを提供する」というもので、その社会貢献性の高いコンセプトを共有することが支援のポイントだった。回想新聞の紙面に細かく配慮されて散りばめられている、会話のキッカケに繋がるキーワードをどのように活用したらいいかを考え、BtoCや介護施設の利用だけでなく、シニア顧客との接点を欲しているBtoBの販売を提案した。

またこれから市場が拡大されると予測される「音声」のサービスも提案。AIとの連携でさらなる需要拡大も望めるとアドバイスした。

支援成果

回想新聞の販売先をBtoC及び介護施設に限定していたところを、「企業の販促ツール」に用途を拡大したことで月刊最大10万部以上の販売を達成した。

また「音声版」の提供と、さらにAIを連携させる提案で、2019年5月にAmazonスマートスピーカーのAlexaの有料コンテンツとして日本初リリースの7つのうちのひとつとして採用



回想新聞公式サイト TOP

され、「2019年 Alexa スキルアワード シニア部門賞」も受賞した。さらに、「音声版」が好評だったことで回想新聞独自の新しいサービスとして、リスナー登録すると最新号が無料で届くサービスを開始するなど、回想新聞のコンテンツを活用したユーザー拡大や新しいメディア戦略にも繋がった。

CO コメント

高齢者人口が増加していく我が国では認知症の予防やケアは、医療費や介護費の抑制の観点から重要課題となっている。そんな状況の中、認知症の予防やケアの方法とされる「回想法」のツールとして、高齢者に限らずその家族及び介護関係者に「回想新聞」が提供されることは、社会貢献性の高いビジネスモデルである。しかも「回想法」のツールを、介護する人にも楽しめる「エンターテイメ

ント」にこだわって提供しているという点には、新しさの可能性を感じている。今後も発行部数の増加と音声版の提供拡大で、認知症対策の楽しいツールとしての貢献に期待している。



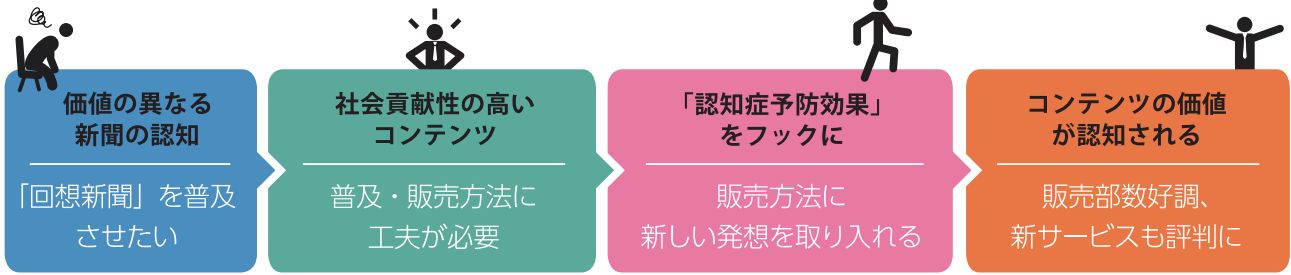
HULL 代表の
佐藤氏

回想新聞社

代表者 楠 信子
住 所 千代田区神田小川町 1-8-3
H P <https://www.kaisoumedia.jp/>

HULL株式会社

代表者 佐藤 典之
住 所 渋谷区幡ヶ谷 1-10-3
T E L 03-5354-7870
H P <https://www.hull-inc.jp/>



平成29年春
創刊時
販売部数
伸び悩み

- 「回想法」を実践する新聞。工夫された内容と紙面
- ✕ 高齢者への、月刊紙の直接販売だけでは、普及は困難



BtoCからBtoBへ

懐かしい内容の記事の魅力を生かし、高齢者向けサービスを手掛ける事業者をターゲットに、販促ツールとして販売することを提案。保存性の高いチラシとして活用できることを強調し、営業を行った。



✓
 介護施設（上場企業）の顧客向けに導入が決まったほか、大手通販会社や大手ゼネコン、証券会社の広報紙としてバックナンバーの紙面提供（OEM版）も実現。月間発行部数が最大10万部を達成。

平成30年秋
普及加速へ

- 当拠点と共に販路開拓に取り組み、月発行最大10万部を達成
- ✕ 認知症対策として一層普及させるには、さらなる工夫が必要
- ✕ 高齢者にとって文字を読むことは負担



音声版とAIで新サービス

文字が読みづらい高齢者に向けて「音声版」を提案。さらにAIと連動することで、将来的には高齢者の会話が引き出せるAIのコンテンツとして重宝されるのではと提案した。



✓
 相談者がAIの音声分野を得意とする開発会社社に提案した結果、Amazon社スマートスピーカー内臓のAIアシスタント、Alexaスキルに採用された。懐かしいニュースを読み上げてくれる「回想新聞 for Alexa」は利用者に好評で、Amazon社主催2019年スキルアワードのシニア部門賞も受賞！



大手証券会社OEM版採用



大手通販会社OEM版採用

